

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 こうとう民報編集委員会
責任者 今井 栄一
住所 江東区亀戸7-39-1-501
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

誰もが暮らせる 最低保障年金制度を



「06年金者一揆」=06.10.18日比谷集会、銀座までパレード江東の参加者（佐藤氏提供）



東江東区議員
局長
江東区
事務局長
組合事務局長
支部事務局長
斉藤憲夫

自公政府は6月からの住民税大増税、連動した国保・介護保険料の負担増。高齢者に耐え難い苦しみをもたらしました。年金組合・江東支部斉藤憲夫事務局長にうかがいました。

現在も未来も不安でいっぱい年金とくらし。私の家の近くの工さんの年金は月額3万5千円。年金だけでは暮らせないと仕事を探していますがなかなか見つかりません。「今年の増税でわずかな年金収入がまたへりました」と怒りをこめ話されました。江東には組合員に司法書士の先生がいます。以前から「消えな年金」

「最低保障年金制度」を今年参議院選で大きな争点になった「消えた年金」問題の解決をはじめる「最低保障年金制度」を実現に向けて、学習会・街頭署名など力を合わせ強めていきます。また来年春、政府が予定している高齢者の負担が増え、安心して医者に

もいけなくなる「後期高齢者医療制度」についても学習会や署名運動を予定しています。今年10月から建物の解体工事にも事前説明が要綱になりました。悪政変える力に

最後戦争体験世代日本の宝憲法9条守る年金組合員は東京大空襲、原爆被災、食糧難、シベリア抑留など苦しい戦争を体験した最後の世代です。だからこそ憲法9条は日本の宝です。「若者には明るい未来、高齢者には豊かな老後」を合言葉に、ひとりぼっちの高齢者をなくし、高齢者の1%の仲間づくりを目標にとりくみます。



荒川河川敷花火=8月1日

日本共産党の8人の区議会議員がとりくんでいる生活相談はサラ金、介護、医療、住宅、建築紛争、生活保護などさまざまです。交通事故から命を守る05年、永代通りの横断歩道を青信号で渡っていてダンプカーにはねられた死亡事故。「安全に渡れる信号機に変えて」という近隣住民の相談に、議員と党支部は、住民とともに署名をもって城東

警察署へ要請。この8月、人と車を分離する信号機が設置されました。砂町橋から左折するダンプカーで小学生が死亡。議員と党支部は、タイコ橋で見通しの悪い砂町橋の切り下げを求め、長年ねばりつよく運動をし、最近、橋の切り下げ工事を着工することになりました。

困ったことがあったら共産党の議員さんに相談したらいいよ

駅にエレベーターの設置。越中島駅を利用する高齢者の方から「階段の上り下りがつらい。何とかできないか」との相談を受け、議員と党支部が現地を調査。JR東京支社と交渉し、エレベーターが設置されることになりました。潮見駅でもベビーカーを使う若いお母さん

から「エレベーターをつけて」との要望に、議会でも取り上げ、江東区に設置費の助成を約束させました。建築紛争・立ち退き問題。ビルの解体工事の振動・騒音問題の相談をうけ、本会議で取り上げた結果、今年10月から建物の解体工事にも事前説明が要綱になりました。

議員に寄せられた相談は切実です。個々に解決するとともに、その背景にある貧困と格差を広げない悪政にストップをかけ、「住民が主人公」の新しい政治をつくるためがんばっています。

仕事仲間と板村温泉郷の日帰り温泉施設に行った。「健康のゆぐリーングリーン」と名前は高齢者に優しいそう。大人500円、子どもと65歳以上は200円、70歳以上の市民無料とある。仲間内の高齢者3人は65歳以上を証明しよう。受付でそれが健康保険証、診察券、シルバーパスを出した。一番理解されなかったのはシルバーパスである。大体地元にはそんな制度はない。「年齢が書いてないと困るんです」と受付嬢。わが仲間はシルバーパスの制度そのものから熱心に説明、理解できたのか、熱心さに負けたのか、無事200円で通過した。「なにか得したみたい」と三人とも満足そう。一生懸命生きていけば何かこ褒美がある、日帰り温泉にそんな優しさを感じる。だから胸を張って高齢を証明する。自公政治の高齢者いじめとは天と地の違い、参院選での惨敗も当然だ。「美しい国」より、日本は人に優しい国であって欲しい。「露天風呂風」に吹かれて「赤とんぼ」。



潮騒

仕事仲間と板村温泉郷の日帰り温泉施設に行った。健康のゆぐリーングリーンと名前は高齢者に優しいそう。大人500円、子どもと65歳以上は200円、70歳以上の市民無料とある。仲間内の高齢者3人は65歳以上を証明しよう。受付でそれが健康保険証、診察券、シルバーパスを出した。一番理解されなかったのはシルバーパスである。大体地元にはそんな制度はない。「年齢が書いてないと困るんです」と受付嬢。わが仲間はシルバーパスの制度そのものから熱心に説明、理解できたのか、熱心さに負けたのか、無事200円で通過した。「なにか得したみたい」と三人とも満足そう。一生懸命生きていけば何かこ褒美がある、日帰り温泉にそんな優しさを感じる。だから胸を張って高齢を証明する。自公政治の高齢者いじめとは天と地の違い、参院選での惨敗も当然だ。「美しい国」より、日本は人に優しい国であって欲しい。「露天風呂風」に吹かれて「赤とんぼ」。

平和・くらし風土記 ②

石川島労働者の不屈のたたかい 「たたかってこそ明日がある」

② 「合理化」と不屈のたたかい

企業の総力をあげた労務対策のもとで、レクレーションリーダー育成を装った反共的労働者の育成、インフォーマル組織の浸透により、活動家とは「目を合わすな」「口をきくな」と、活動家を“職場八分”にする攻撃が強められました。こうしたもとで、70年代に全造船脱退が組合員投票で決まり、石播東京労組は同盟(当時)に取り込まれました。

77年、石播労組委員長・柳沢鍊造を擁しての企業ぐるみ選挙が展開され、「柳沢でなければ人ではない」という状況の職場がつくられました。高度経済成長政策が破綻、造船不況に直面するなかで、これを人へらし「合理化」で突破するための労資一体体制づくりが狙いでした。労働者は「組合が会社の応援を受けては、大幅賃上げは実現できない」と、要求と結びつけてたたかい、また企業ぐるみ選挙の不当性を糾弾し、宣伝カーを仕立てて首都圏で数万枚のビラを配布するなど、不屈にたたかいました。

「差別のデパート」と言われた石播では、その後も「合理化」推進のための活動家への差別、労働者への犠牲押し付けがつづきます。

「共産党対策のためには工場一つぐらい潰してもよい」という会社トップの指示が背景にありました。



とりわけ、86年の、わずか1ヶ月半で、7000人もの削減は退職強要と人権侵害をとまなうすさまじいものでした。「辞めます」というまで何度も呼び出し、断ると冬の寒空のもとでのドブさらい、必要ないペンキ塗りをやらされました。退職強要により人間の尊厳を踏み躪られた労働者のなかで、4人が自殺に追い込まれるという悲惨な結果を生みました。

しかし、この時も、石川島の労働者は「退職強要を跳ね返す12章」をつくり、励ましあって不屈にたたかいました。

江東区原爆被害者の会(江友会・奈良会長)は96年以来続けてきた「原爆と人間」展を、今年も8月4日から一週間アメリカアプラザで開催しました。広島原爆模型や悲惨な記録写真の展示会場に、初日から親子づれなど1600人が訪れました。そこで江友会中嶋事務局長(写真左端)や杉田元副会長などにお話を伺いました。

未来への伝言

江東に生きる原爆の証人たち



今年8月広島・長崎の原爆死没者は39万6132人に達し、被爆者健康手帖をもつ方も25万人を超えています。

江東の被爆者は196人、62年前原爆の放射線に貰われた体にガンや白血病がいつ発症するか、不安と高齢化に加えて偏見とたたかいながらの運動です。現に中嶋さんは早期発見で一命は取り止めたものの、片方の腎臓を摘出しています。

「沈黙から行動へ」と東友会の提唱による江東の被爆者の証言「未来への伝言」には、志願兵や勤労動員で被爆した方や東京大空襲をのがれた疎開先広島で九死に一生の体験など、今でも原因不明の後遺症に苦しむ

現実が綴られています。そして半世紀を経て01年江東区でも「語り継ぐ言葉」が刊行され、30人の記録が収められて、区内PTAの肝いりで小・中学生に語り継ぐ活動も始まりました。

久間前防衛相の「しょうがない」発言は、原爆投下で戦争を終結させたというアメリカの当事者の主張を盾に「受忍論」をよりかぎす政府の立場です。

ふくめ266人が提訴している原爆症認定裁判では、被爆者手帖を持っている人の中で原爆症認定者が、1%にも満たない2200人という不合理的な基準を断罪し、国は6回も敗訴、その都度控訴して結論を先送りしています。



草の根の運動、世界の世論を動かす

前や駅頭で一万人署名にとりくみ、「署名をやっても核はなくならないよ」「そんな署名役に立つの」などの質問や「頑張っているね」と励げまされ、署名目標を突破して大会参加の発言に草の根の力を実感。「ノルウェー国民の95%が核兵器廃絶に賛成」と知り、国際的な広がりを感じしました。(猪又武夫)

「私たちが死に絶えるのを待っている」と国の冷たい対応に怒りの声があがります。55年以来、内外の分裂策動をのりこえてきた原水禁運動の底流には、命ある限り核による人間破壊を許さないという、被爆者たちの草の根の活動があることを実感させられました。



杉田元副会長

お知らせ
「日本の青空」上映江東実行委員会(代表 山田利尚)は07年10月25日(木)カメリアホールで3回上映。日本国憲法誕生の真相に迫る映画の上映にご期待ください。(詳細は続報)

9月の行事案内

- 2日(日) 13時、亀戸事件84周年追悼会、赤門浄心寺
- 6日(木) 19時、マンションなんでも相談会、江東文化センター3F
- 15日(土) 10時、難病患者「区民のつどい」、墨東養護学校
- 16日(日) 13時、社保協学校(後期高齢者医療制度について)江東文化センター会議室
- 27日(木) 18時、命と平和・愛を歌う梅原司平トーク&コンサート、カメリアホール
- 28日(金) 18時、亀戸事件84周年記念学習会、(石播のたたかいを学ぶ)カメリア会議室